

防災ワンポイント 第67回

新年度のスタートです！

新しい『中標津町洪水ハザードマップ』で、
家庭や職場、学校などの防災対策を始めましょう！



じゃがいもずきん
「ききぼう」くん

みなさんは、ハザードマップとは何か知っていますか？じっくり見たことはありますか？ハザードマップは、2011（平成23）年の東日本大震災を機に、防災や危機管理対策の一環として日本で作成され始めました。

ハザードマップとは、一般的に「自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図」とされています。防災マップ、被害予測図、アポイド（回避）マップ、リスクマップなどと呼ばれているものもあります。

また、**洪水ハザードマップ**とは、大雨などによる河川の増水や氾濫、破堤などによる浸水情報や避難に関する情報を住民に分かりやすく提供するため、市区町村が作成し公表したものです。

中標津町では2019（平成31）年3月、2015（平成27）年の水防法の改正に伴い北海道が公表した「洪水浸水想定区域図」に基づいて、想定しうる最大規模の降雨（1000年に1回程度発生する降雨）の『**中標津町洪水ハザードマップ**』を作成しました。従来（保存版2015年4月中標津町防災ハンドブック掲載）のもの比べると、大幅に浸水区域が広がっています。1000年に1回の大雨が、明日かもしれません。どこがどう変わっているのかをしっかりと見極め、自宅はどうか、職場はどうか、学校はどうかなど、地域の水害リスクを知っておくことが大切です。

安全に避難するために避難場所や避難経路を事前に確認したり、避難が必要になった時、すぐに持ち出せるように非常持ち出し品をリュックサックなどにまとめておいたり、家族が離れている時の安全確認方法などを決めておくなどの必要もあります。災害に備え、しっかり防災対策をしておきましょう。

従来 2008(平成20)年6月公表
保存版2015年4月中標津町防災ハンドブック掲載



新しい 2019(平成31)年3月公表



【従来】30年に1回程度の確率で作成		【新しい】1000年に1回程度の確率で作成	
標津川	24時間に174.5mmの降雨	標津川	24時間に318mmの降雨
		タワラマップ川	1時間に130mmの降雨
		ますみ川	1時間に130mmの降雨

中標津町洪水ハザードマップは、中標津町ホームページに掲載しています！

ホームページには、項目別の洪水ハザードマップ「洪水時避難箇所図」「社会福祉施設位置図」「介護サービス事業者位置図」「要配慮者利用施設位置図」の他、新しい「30年に1回程度発生する降雨の洪水浸水想定区域図」も掲載しています。

冠水した道路を歩くことは、水深が浅くても蓋のはずれたマンホールや側溝などが見えなくなるため、非常に危険です。避難場所への移動は、浸水が始まる前に行うことが基本です。既に浸水が始まっているなど移動するのが危険な状況になってしまった場合は、状況に応じて自宅やビルなど堅牢な2階以上の建物に避難しましょう。家庭や職場などの水害の備えに、ホームページ掲載の洪水ハザードマップをお役立てください。紙ベースで欲しい方は、総務課防災係へお越しください。

新しい『中標津町ハザードマップ』は、全部で6種類あります！



詳しくは、総務課 防災係まで。